



西小校長室だより

令和7年度 4月号

(文責 妹尾)

【※西小ホームページのアーカイブを抜粋・加筆しています】

令和7年度が動き出しました

11名の新生を迎え、全校児童112名で今年度がスタートしました。始業式や入学式での子どもたちの顔つきは、それぞれ進級・入学した「やる気」に満ちていました。この子どもたちの持てる力をしっかり引き出し、また伸ばしていきたいと考えています。

年度末には教職員の異動も多くあり、新たに8名の職員が転入しました。(裏面参照)教職員一同が一枚岩となり、子どもたちが「行きたい学校」、保護者が「通わせたい学校」、地域が「応援したい学校」となるよう西小学校教育の推進に尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



入学式にて ～命を輝かせ～

4月9日(水)に入学式を挙行了しました。ワクワクとドキドキが入り混じった表情で入場してきた新1年生たち。



新たな一歩を踏み出すわが子の晴れの門出を見つめる保護者の皆様。学校のリーダーとなる新6年生。新しい仲間を待ち望んでいた2～5年生。学校応援団として見守っていただいている地域の皆様。そして私たち教職員。それぞれの思いが凝集された入学式でした。私からは「大切な命」「あいさつ」「少々のことではこ



たれない気持ち」の3つを大切にしてほしいと話しました。また先輩たちから歓迎の言葉を聞き、緊張の中にもうれしきの表情を見せていた1年生の初々しい姿が印象的でした。

さあ、これからの毎日がドラマです。いつもハッピー

新たな一歩を踏み出すわが子の晴れの門出を見つめる保護者の皆様。学校のリーダーとなる新6年生。新しい仲間を待ち望んでいた2～5年生。学校応援団として見守っていただいている地域の皆様。そして私たち教職員。それぞれの思いが凝集された入学式でした。私からは「大切な命」「あいさつ」「少々のことではこたれない気持ち」の3つを大切にしてほしいと話しました。また先輩たちから歓迎の言葉を聞き、緊張の中にもうれしきの表情を見せていた1年生の初々しい姿が印象的でした。

エンドとは限りませんが、それぞれが主任公となる、たくさんの経験を積んでほしいと思います。

コウノトリの学習を通して

西小学校はコウノトリに選ばれた学校というイメージが定着しているくらい子どもたちと密接な関係でつながっている学校です。間近でつがいの「げんきくん」と「こっとりちゃん」を毎日見ることができます。また半月ほど前に抱卵していた卵が孵化し、何羽かのヒナが誕生しました。子どもたちにとっては身近なコウノトリを、本校の学習における一つの柱に据え、環境学習やふるさと学習、また生態系の学習など幅広く学んでいきます。4月10日(木)には三瓶自然館サヒメルより学芸課長の星野先生に来校いただき、3年生と4年生がコウノトリについて学習しました。実物大の写真パネルや模型を見たり触ったり、「げんきくん」が西小に来るまでの話を聞いたりしましたが、絶え間ない質問や気づきをシャワーのごとく先生に浴びせる子どもたちの積極的な態度に、この学びへの関心の高さを感じました。



また4月14日(月)には、6年生と5年生が星野先生と一緒にこれまでの学びを想起しながらさらに発展させ、コウノトリが住みよい条件などについて考えました。エサを1日1kg食べるヒナが十分育ち、元気でこの町を舞うために何が大切かを考えたり、5月下旬から6月上旬にかけて巣立ちする瞬間を見届け発信したりするミッションのことを聞いたり、自分たちでつくる田んぼにも関係づけて考えたりと、今後の学習に期待を膨らませていました。



重要なのは、この学習を通して子どもたちが何を学ぶかです。鳥と人間の共存や環境問題に関心を寄せることに留まらず、自己有用感や主体的な探究心の向上、ふるさと愛の深まりなど、その期待は高まるばかりです。

担任等	氏 名	担任等	氏 名	担任等	氏 名	担任等	氏 名
校 長	☆妹尾 義則	4 年	☆小倉さくら	養護教諭	松村 理恵	支援員	☆高野 幹子
教 頭	大床 敏之	5 年	山根 大輝	主任主事	石橋 明歩	地域 CN	武田 純子
教務主任	岡 利行	6 年	三浦 公一	にこサポ	岡田 良恵	A L T	ｶｽﾀﾓﾆｯｸ・ﾃﾞｲﾔ
1 年	☆野津 美幸	わくわく	福田 和子	校務技師	黒目 恒子	ｶｳﾝｾﾗｰ	和田 淳子
2 年	梅 聡美	にこにこ	錦織 士朗	学校司書	☆原 美和子 (景山 優奈)	初任研補充	久我 紀子
3 年	☆藤井 千尋	専 科	☆西 美也子	支援員	☆小山 仁美	拠点校指導	坂田 英則

めざしたい学校の姿

私がこの西小学校でめざしていきたい学校の姿や教育のあり方、また子どもたちの姿については、追々この校長室だよりで述べていきたいと思います。今回は、「このような学校でありたい」という概形に留めます。

- 主体的に考え、やりたいことに挑戦できる学校
- 互いを認め合い、自分らしさが発揮できる学校
- 夢やあこがれを持ち、粘り強く取り組む学校

そして、子どもたちが「行きたくなる学校」、保護者が「通わせたい学校」、地域の人たちが「応援したくなる学校」であるために、私たち教職員は、皆様のご支援とご協力を得ながら力を尽くして参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

校長所感 ～ほめ方・叱り方～

私は次の話をいろいろな場で話したり、皆さんに問うてみました。一度みなさんも一緒に考えてみていただけたらと思います。

子どものより良いほめ方、叱り方や、子どもへの寄り添い方については、これまでたくさんの教育研究者が、様々な説を立て検証され、それに基づく教育書も多数出版されています。保護者の皆さんも現在の子育てにおいて、ご自身の教育観に沿いながら日々子どもと接しておられることと思います。次のようなケースを皆さんならどのようにお話されますか。

子:今日ごはん食べない。
親:何でごはんいらないの?せっかく作ったのに。
お菓子ばかり食べているからお腹すかないでしょう。
子:食べる気にならないからしょうがないじゃん。
親:後でお腹すくから、少しでも食べなさい。
子:いらないってば!しつこい!
親:何でそういうことしか言えないの!

モンテッソーリ教育&レッジョ・エミリア教育研究者であり児童発達学博士の島村華子氏は子どもとしっかりつながるための「聞く習慣」として「アクティブ・リスニング(傾聴)」を推奨されています。心から子どもの話を聞き、無条件に受け止める受容精神の重要性や、「コミュニケーションのバリエーション(ジャッジする・解決してあげようとする・話をそらす)」を使わないなど、親の対応の仕方に言及しています。先ほどのケ



ースをアクティブ・リスニングを使った会話では、以下のようにする必要があります。

子:今日ごはん食べない。
親:そうか。今日ごはん食べたくないのね。
子:ストレスありすぎて食べる気にならない。
親:何か嫌なことがあったの?
子:バスケでレギュラーから落とされた。
親:そうだったんだ。レギュラーに入れなかったんだ。
子:コーチにもすごい怒られて、本当に最悪。
親:そっか。コーチに怒られたら、きっと気分が落ち込んじゃうよね。 ～ 後略 ～

また、「ほめて伸ばす」ポイントとしては、①成果よりもプロセス(努力、姿勢、やり方)をほめる。②具体的にほめる。③質問しながらほめる。という3つを挙げられています。



しかし、子ども自身が明らかに頑張っていないと自覚しているときの「頑張ったね」はほめた人の誠意さえ疑われてしまいます。つまり**大人が子どもをコントロールしようとしてほめることは逆効果**ということなのです。

「それダメ!」「違う!」「やめて!」など否定的な言葉で叱らない…といった「叱るポイント」もよく耳にしますが、要は、これも**大人の価値観だけで叱ることの危険性**を示唆しているのだと思います。

数ある子育て論の中から、ある教育論として紹介した一例にすぎませんが、『そんなことは頭ではわかっているけど、こんな対応は無理。こっちにも心に余裕がないとできない。』という声も聞こえてきそうです。

「教育とはこうあれ」的で正当な理論には、思わず言い返したくなることもたくさんあります。島村氏も著書で「親も人間、全部完璧にやろうとしなくていい。」「子育てに絶対の正解はありません。」と述べておられます。

まっすぐ我が子と向き合い、思いを共有できる親子の関係を築き、やがて来る自律の時を想像しながら、楽しんで子育てできればいいなと思います。**一念通天 思いは通じるはず**です。



学校のホームページの「児童の様子」を更新し、学校の様子をお伝えしていきます。どうぞよろしくお願いします。